

# 「若年がん患者に対する妊孕性温存療法の 最新トピックス」

- 講師：鈴木 直 教授（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）
- 日時：平成 27 年 5 月 13 日（水） 17：30
- 場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

○Lecturer: Prof. Nao Suzuki

(Chairman, Dept. of Obstetrics & Gynecology,

School of Medicine, St. Marianna University)

○Date: May 13<sup>th</sup> (WED) from 17:30.

○Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

当日は医学・生命科学セミナーも開催されますので、お間違えの無いようご注意ください。



産婦人科医は、配偶子や胚の凍結保存、卵巣の位置移動術や縮小手術等の妊孕性温存の診療を古くから行ってきた。しかしながら近年の医学の進歩に伴って、若年がん患者の生殖機能や妊孕性温存を考える医療である Oncofertility (がん・生殖医療) が 2006 年以降改めて注目され、産婦人科医が本領域へ関与する重要性がさらに増してきている。がん患者は原疾患に対する治療を何よりも優先すべきであるが、寛解後に妊娠を望むことができる若年がん患者も少なくなく、一方治療内容や患者の年齢によっては治療後に卵巣機能不全状態に陥り妊孕性が消失する場合もある。元来卵巣の予備能には個人差があるが、限られた時間内にがん・生殖医療を行わなければならない難しさもあり、がん治療医と産婦人科医との密な医療連携が重要になって来る。本セミナーでは若年がん患者に対する妊孕性温存療法の最新トピックス、ならびのその問題点を概説させて頂く。

- 担当：産科婦人科学分野 片渕教授

/ Prof. Katabuchi, Department of Obstetrics & Gynecology

- レポート提出先/Essay (片渕教授宛/To Prof. Katabuchi) : [buchi@kumamoto-u.ac.jp](mailto:buchi@kumamoto-u.ac.jp)

- レポート提出先/Essay(CC:医学教務/Student Affairs Sec): [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)